

面白くするとみんなが思わないといけない。先ほどの答えも含めてですが、今何をしたら政治が良くなるのかということ、政治家自身も良く判っていない。今暫く時間はかかると思いますが、今回の選挙の中でネットを割と駆使して善戦した政治家もいますし、少しずつ違うタイプの人たちが政治家になろうとしている。もう少し時間を置かないと、すぐには良くなりませんと思います

司会：竹下さん

面接授業を来年10月に中四国ブロック公開授業で、共通テーマに「地域の資源と産業」となりました。島根からは「離島からの全国発信！一海士町の取り組み(仮題)」を隠岐の海士町内で開催する予定です。

地域の鉱物、水産、農林、観光、文化など等、地域の特色ある資源を活用した産業振興は、如何にあるべきか。地域社会の活性化の方策を考えます。

町の地域再生・活性化を如何にして作ったのか、公共投資を箱物ではなく、将来を見越した人材育成に投資をして来た。それが現在功を奏し活性化をなし、全国から注目を得ていますので、観光と併せてお出かけ下さい。卒業生も定数に空席があれば、共修生として有料にて参加できますのでお出かけ下さい。詳細は学習センターにお尋ね下さい。御厨先生ご多忙の中遠路お越し頂き有難うございました。



創立 30 周年祝賀会を開催

ホテル宍道湖

記念講演会、交流会に引き続き、30周年を「祝賀会」同窓会主催、学友会、学習センター共催にてホテル宍道湖にて午後5時より28人(来賓2、同窓会10、在学生8、センター8)の参加にて開催した。来賓には島根学習センター初代所長錦織禎徳先生、元客員教員山本敏磨先生をお招きした。

石川直樹副会長の開会挨拶に続いて、来賓の錦織禎徳先生による祝辞は、「平成8年の17年前に開設となり、初代所長として苦労したことは、人口の少ない県で果たして継続的に学生が



集まるのか不安でしたが、動き出すと行政の支援と学びたいとの熱い思いの人たちで、1学期520人、2学期450人と思いのほか登録された学生が確保できたことや、中国地方で最初に学友会を立ち上げ、センターと協力して行事の運営をしてことを思い出します。だが、同窓会の設立には及ばなかったのは心残りでした。ともあれ創立30周年誠におめでとうございました。」

山本敏磨先生は、「錦織先生、有馬先生、内藤先生と三代に亘る所長による客員教員として、面接授業、

学生相談、センター行事への参加など、学生の皆さんと係わったことを回想されて、学生は心理学への



学びが顕著であったことを話され、今後の更なる飛躍に期待する。」と挨拶された。

竹下靖彦会長による乾杯の音頭に際し、「島根学習センターは平成11年に初の卒業生を出してより今1学期まで学部・修士併せて390人を輩出して来た。同窓会設立により卒業生と学習センターとの協働を更に強め、地域での社会貢献に勤めて、放送大学の存在感を県内にアピールしたい」と挨拶した後、高らかに乾杯の音頭をした。その後は来賓、同窓生、在校生、センター職員と参加者による和やかな懇親して交流を深めた。

島根学習センターが編集した平成8年開設以後の変遷を、保存写真の中より抽出して各種の行事、とりわけ学位記授与式、面接授業、入学者の集い、茶話会、学生研修旅行、客員教授によるサロン学友会などクラブ活動を17年間にわたる写真をスライドショーにして観賞しながら、出席者一同往時を偲びながら創立30周年の思いを新たにした。

宴の最後は増原久子副会長による閉会の挨拶は、「在校生と卒業生の交流を深め更なる絆を築いて行きましょう」と、挨拶して祝賀会は無事終了した。

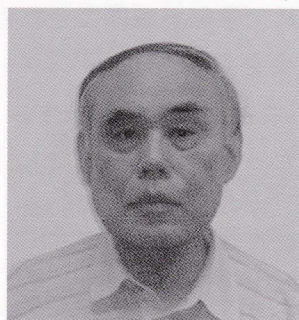


放送大学30周年記念（主催：放送大学島根学習センター） 平成25年10月5日 於ホテル栄道湖

リレートーク① 放送大学その後

EBM（根拠に基づく医療）考

2004年2学期全卒 小汀 政徳



今年8月末に全米で50万部のベストセラーとなった本の日本語版が刊行された。書名は「ジエンド・オブ・イルネス病気にならない生き方」。著者の一人はアップルの創始者スティーブ・ジョブズの主治医も務めた米国第一線がん研究者でディビット B. エイガスである。本書の中で彼は、体が非常に複雑なシステムであることを忘れて、たとえば健康と不健康のただ一つの原因を遺伝子の変異、欠損や細菌、血圧、血糖値の異常などで見つけようとして新たな治療法や薬の開発に駆りたてられてきたが、これは間違った見方をしてきたとい

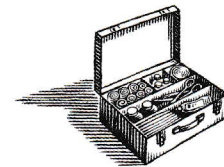
い、永続的な健康を手に入れるうえで、一番大切なことは何だろう？と私達に問い、自分の体に最も合った基準を見つけ、健康をコントロールできる方法を説いている。特に各章末に掲げられた「健康のル

ール」は多くの示唆に富んでいる。

単独の研究だけでは科学でない

ところで私が一番眼を奪われたのは「はじめに」の中にあった次の一文である。「1回限りの、単独の研究の中には、私の考えを否定するものがあるかもしれないが、それは科学でない。科学者があるテーマを検討する際には、単独の研究を根拠にしてはならない。そのテーマに関係のあるすべての研究の結果を分析する必要があるのだ。それはまさに、メタアナリシス（メタ分析）が行っていることだ。私の主張はすべてこのゴールドスタンダードを満たす研究に基づいており、今後もそれは変わらない」。彼は EBM でいうところの高いエビデンス（根拠）と低いエビデンスとを明確に意識しながら本書を執筆したと思われたからだ。そもそもエビデンスとは何だろうということになるが、評価したい薬物または治療法を、処置群と比較対照群を無作為に割り付けて実施したランダム化比較試験（RCT）によって得られた結果が高いエビデンスとされ、それを併合して分析したものをメタアナリシスという。ケーススタディからのエビデンスは低いとみなされる。

EBM は医療の概念である



EBM は西欧では 1991 年に提唱され、日本では 1990 年代中頃に取り入れられた新しい医療の概念である。それでは私達がいままで受けてきた診断や治療は何だったのか？これを旧来型医療と呼ぶと次のようなことになるらしい。①臨床判断は個々の医師の直感・臨床経験・習慣、病態生理を重視、②思考過程は病態生理学的、③医師患者関係はバターンリズム的、④メリットとしては医師の裁量権が尊重され、個別性を活かした医療ができる、⑤デメリットとしては少数の経験や権威による判断が誤っていた場合に是正され難い。

一方、EBM 診療については次のように対比できるという。①臨床研究によるエビデンスを重視、②臨床疫学的判断、③患者の自律性を重視、④少数の経験や判断が誤っていた場合にエビデンスで是正が可能であり、医療水準の「底上げ」も可能、⑤患者の観察よりも文献検索や統計データの解釈に関心が傾く。

筆者は 2004 年度の卒業研究のテーマに EBM を取り上げ日本のエビデンスの量的な面、質的な面に焦点を当て、さまざまな角度から計量することにした。しかし、EBM による診療が効果的に機能するためには「エビデンスをつくる・つたえる・つかう」のどの部分も強い基盤と高い水準を保つことが不可欠で、これには EBM を実践する医師、看護師、薬剤師、検索を担う医学系図書館員などのチームプレーが必要となるが、結論としては「EBM の普及はまだまだ」と発表して終わった。

診療ガイドラインは 152 種類へ

いま、あれから 10 年を経て EBM 医療を振り返ると、公益財団法人日本医療機能評価機構が運営する事業の医療情報サービス Minds（マインズ）は、多くの方の協力と支援を得て着実にエビデンスを増している。たとえば最初は 4 種類しかなかった医療提供者向けの「EBM による診療ガイドライン」は今や 152 種類（2013 年 10 月 24 日現在）にもなっている（他に一般向け診療ガイドライン 91 種類、コクランレビュー・アブストラクト 1870 件を発行）。受診側には EBM 医療が実体として見えにくく伝わってこ

ないかもしれないが、日常診療の基盤として確立されつつあることも確かである。一方で眼に見える形としての大きな変化もある。EBMの特徴である「患者の自律性を重視する」がかなり広まったことだ。病院には患者図書館に闘病記などが多数展示され、ネット社会の普及もあるが各地に患者サロンや患者の会、家族の会などが多くでき交流が深まっている。医療にしても介護にしても最後は人と人の触れ合いであり、情報の共有である。

平成25年度第1学期

学位記授与・卒業式で竹下同窓会長祝辞



只今ご紹介を頂きました、島根同窓会会長の竹下靖彦です。本日、放送大学をご卒業され学位記を授与された皆さんの前で、このように祝辞を述べる機会を得て大変光栄に思います。

皆さんは職場、家庭にあつて学生生活を送って来られました。その間数多くの経験を積み、幾多の困難をも克服され、本日ご卒業を迎えられ、放送大学という素晴らしい大学から学位記を授与されました。全国では今学期に学部・修士併せて1,637名の皆さんが晴れのご卒業をされました。

私は、放送大学島根同窓会を代表するとともに、ご指導に当たられた諸先生方、事務職員の方、今日を心待ちにしておられたご家族の皆さん、共に学び合った在学生、後輩の奮闘を見守る卒業生の皆さんと共に喜び、大いに祝福したいと思います。

本年3月、全国49番目となる島根同窓会を設立しました。目的の柱は、放送大学の発展に寄与する、学友会との協力共同事業、同窓会主催の講演会の開催、地域貢献活動への取り組みなど、各種事業を展開することです。

同窓会とは“成長と安寧の場”

同窓生とは誠に不思議なもので、学生時代には余り交流の深くなかった学生同士が放送大学卒業というだけで、旧知のような仲になります。私は同窓会とは“成長と安寧の場”だと考えています。先輩や多くの仲間との交流によって、思わぬ人脈が拡大し、先輩の背中を追いかけ、育てられていることに気が付きます。

皆さんにお配りしています袋の中に、先般発行しました「同窓会会報 創刊号」「入会のお願い」を入れさせていただきました。ご卒業を期に更なるスキルアップを目指して継続入学される方、大学生活にひと区切りされる方、母校と連携して活動する同窓会に是非ご入会下さい。本校は1985年に開校されて以来、今やその規模、教育環境、研究水準、優れた教授陣を擁する大学へと発展しました。開校以来80,262名の卒業生を輩出し、全国各地でご活躍されています。本年2013年度は開校30周年を迎え、全校挙げて記念事業に取り組んでいます。

もちろん、島根同窓会も学習センターとともに、記念事業として来る10月5日(土)午後1時30分よ

り記念講演会ならびに祝賀会開催に向け取り組み中です。

最後に、放送大学で学んだ見識と行動する勇気を地域、職場で発揮され、高等教育を受けた者として、真のリーダーとして役割を果たすことに是非挑戦して下さい。

私たち島根同窓会は、皆さん方の更なるご活躍を大いに期待し、祝辞とします。

2013年9月29日

放送大学島根同窓会会長 竹下靖彦

卒業を「祝う会」での主催者挨拶

平成25年9月29日

センター第二講義室

皆さん、本日はご卒業誠にありがとうございます。同窓会長の竹下靖彦です。

今日、放送大学も日々進歩・発展していますが、島根学習センターも同様です。時代に即応した新たな取り組みが求められ、改善に努力されています。

今回、既に実感されていると思いますが、学位記授与式に対する取り組みも、島根同窓会設立を期にこれまでの卒業を迎える体制を刷新しました。後輩の皆さん方が学ぶことへの意欲の探求に取り組み、栄えあるご卒業されたご努力に対し、先輩として共に祝福するため、初めて卒業を祝う会を開催した次第です。私たちの思いにご賛同頂き、ご参加頂きましたことに同窓会としては大いに感激をしています。

本日は短い時間ではございますが、卒業に至るまで如何に対処されたのか、その秘話をご披露いただけたら、後輩の教訓になると思います。

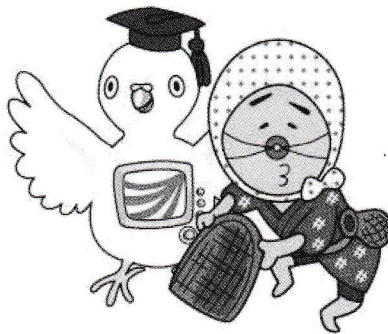
今回の卒業を期に、放送大学で学ぶことを中断される方もおられますが、同窓会が目指している母校の発展に寄与することと、卒業生相互の交流と親睦を図ること、社会貢献への役割も果たすことを設立の趣旨としている、島根同窓会に是非ご入会下さい。

会員になられますと、大学での各種行事のご案内を致します。その折にはどうか遠慮なく馳せ参じて頂けたら幸いです。願わくは再入学されて、新たな自コースにも挑戦され、再び母校の学友として学ばれることを切に願っています。

本日は誠にありがとうございます。

募集

広報部は皆さんの投稿「私の趣味」をお待ちしています。
同窓生による会報づくりにぜひご参加下さい。



同窓会の活動

- | | |
|--|--|
| 8月24日(土) 学友会講演会共同開催
(学習センター) | 9月29日(日) 学位記授与式、卒業を祝う会、
茶話会 (学習センター) |
| 8月24日(土) 学友会との納涼会共同開催
(松江：海鮮料理博多) | 10月04日(土) 創立30周年記念講演会
(学習センター) |
| 8月24日(土) 学位記授与式第1回
実行委員会 (学習センター) | 10月04日(土) 御厨 貴先生との交流会
(学習センター) |
| 8月24日(土) 創立30周年記念講演会
第2回実行委員会
(学習センター) | 10月04日(土) 創立30周年を祝う会
(松江・ホテル宍道湖) |
| 8月30日(金) 会報創刊号発送
(学習センター) | 11月02日(土) 鳥取・島根学習センター
創立30周年記念講演会
(米子市立図書館) |
| 9月04日(土) 学位記授与式第2回
実行委員会(学習センター) | 11月02日(土) 鳥取・島根学習センター
所長・学生との交流会
(米子市立図書館) |
| 9月04日(土) 創立30周年記念講演会
第3回実行委員会
(学習センター) | 11月16日(土) 第3回広報部会
(スティックビル) |
| 9月28日(土) 学位記授与式第3回
実行委員会(学習センター) | 11月23日(土) 同窓会主催、学習センター・
学友会共催第1回講演会
(学習センター) |
| 9月28日(土) 創立30周年記念講演会
第4回実行委員会
(学習センター) | |

島根同窓会当面の行事企画(案)

- | | |
|---|----------------------------------|
| 11月23日(土) 同窓会・学友会・センター
共催講演会(学習センター) | 03月30日(日) 学位記授与式・祝う会
(学習センター) |
| 平成26(2014)年
02月 日(土) 西部地区卒業生・
在学生懇談会開催予定 (浜田市内) | 04月30日(日) 第2回総会開催予定
(学習センター) |

編集後記

同窓生の皆さんにこの同窓会報「たたら」が届く頃には「師走」の声が聞こえ慌しさを感じておられると思います。会報2号から名称は「たたら」と決まりました。創刊号にて名称を募集したところ5点の応募があり、広報部会で話し合いの結果「たたら」に決定しました。

「たたら」は江戸時代中期から明治初期にかけて、日本全国で行われていた日本独自の砂鉄製鉄技術の「たたら製鉄」(踏鞴製鉄)から援用したものです。

島根はその中心地であったことは歴史的事実です。そうした地域より「会報たたら」を同窓生の皆さんと、全国の同窓生諸氏に届けられることを誇りに思います。

最後に、「たたら製鉄」(天秤ふいごをばんこが足で踏み、炉内に送風する職人のこと)から生まれた言葉で、現在も使われている「かわりばんこ」は、このたたら製鉄から来た言葉(古代出雲歴史博物館・たたら製鉄展示説明)だそうです。この編集後記も広報部員が「かわりばんこ」に担当しています。(隆)